

17

「陸軍軍医学校防疫研究報告」Ⅱ部

—(その二)— 研究に加担した医学者(囑託)たち

蒞 昭三

社団法人石川勤労者医療協会 城北病院

(1) 研究の目的：第107回総会で「陸軍軍医学校防疫研究報告Ⅱ部」(「防研報告Ⅱ部」)の概要を報告した。今回はその研究に協力した医学者とその協力の概要を検討し、当時の日本医学界と「731部隊」等との関係を推定することを目的とした。

(2) 研究結果

①「防研報告Ⅱ部」の論文の「共同研究者」：全837篇の論文は主として「陸軍軍医学校防疫研究室」関連の軍医が発表している。しかしそれ以外に「囑託」「担当指導」「医学博士」「囑託医学博士」「指導医学博士」「〇〇大学医学部」等々と肩書きした共同研究者の氏名も並列してみられる。また時には民間研究者単独の発表論文もある。

②「陸軍軍医学校囑託医」制度とその研究者：このように「防研報告Ⅱ部」の研究には多くの民間の医学者が協力しているが、それは陸軍軍医学校囑託、防疫研究室囑託、陸軍技師等の身分で参加し、共同研究・指導、委託研究等を行なっている。それらの医学者を列記すると約30名前後となる(配布資料)。

③この「囑託」「指導」等と明記している医学者で、その所属を「大学」とした人々は、慶応大学医学部、東京大学医学部、京都大学医学部、大阪大学医学部、長崎医科大学、金澤医科大学、千葉医科大学、北里研究所等の医学者である。また東大(伝染病研究所)の小島三郎教授、細谷省吾教授、慶応大学医学部の小林六造教授、京都大学医学部の内野仙治教授、木村廉教授、千葉医科大学の緒方規雄教授等の研究室の教室員が囑託として特に関与していたことが推測できる。

④また囑託研究者単独の論文の中に、「委託研究」と特別に記載しているものも約20篇が存在する(配布資料)。

⑤このような協力者、共同研究者以外に、身分の記載なしで協力している医師・医学者と推定できる人も散見される。

⑥また、個々の論文の末尾に「謝辞」を受けている研究者もある。上述のような「囑託」としての協力ではないが、何らかの形での研究援助、指導をしていた人々であろう。

⑦民間研究機関との共同研究体制：「防研報告Ⅱ部」には防疫研究室が組織した「瓦斯壊疽血清委員会」(配布資料)が記載されている。当時は軍部の細菌戦研究に民間研究機関が組織的に動員されていたようである。

⑧以上のように陸軍軍医学校は多くの研究者を「囑託」として指名し、軍の研究に協力させていたと思われる。戦後、「現代日本科学技術者名鑑」(科学文化新聞社編)に「陸軍囑託」であったと自己申告している医学者も多い。

(3) 結論

①医学者たちの陸軍軍医学校との協力関係は、石井四郎の個人的な交友関係からはじまり、やがて政府の「研究動員」体制や研究費助成等で次第に軍部・防疫研究室等との協力関係が強くなったのであろう。

②その関与はやがて京都大学戸田正三、東京大学伝染病研究所小島三郎、細谷省吾、慶応大学医学部小林六造等の教授たちが世話役となり、それぞれの所属・関連する医学者を「陸軍囑託」等として論文作成に参加させている。したがってこのような研究協力を通じて「石井機関」等に日本の医学界の一部は組織的に関与させられていったと言えよう。

③また「防研報告Ⅱ部」に関係していたと思われる囑託研究者の所属は北海道から九州まで全国的に及んでいることを見ると、当時「石井機関」の存在は医学界の中核では「公然の秘密」であったのではないかと推定できる。

[註] ①本研究は、「平成19年度科学研究補助金(基礎研究B)―『日本における医学研究倫理学の基礎構築を目指す歴史的研究(課題番号17320007)』の一部である。②本論文の概要を「15年戦争と日本の医学医療研究会」第22回研究例会で口述した。